

学校 教育 目標	「つながる ひらく 行動する」 (徳・公)○優しさ:自分も相手も思いやる優しさをもつ子 ○協働:協働する喜びを感じられる子 (知・開)○活用・表現:知識や経験を活用し表現する子 ○チャレンジ:新たなチャレンジができる子 (体) ○健康:自ら健康な身体をつくる子				
	学校 概要	創立 129 周年	学校長 倉岡 ナオミ	副校長 新川 浩一	28日 学期制
児童生徒数: 646 人		主な関係校: 瀬谷中学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	瀬谷中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<p><自分自身を高めていく力> 人とすずんでかかわろうとする姿勢 思いやりをもって働きかける姿勢 主体的に学び続けようとする姿勢 自ら思いを発信する力 自己決定する力 協働しようとする態度</p>	<p>瀬谷中学校 大門小学校 上瀬谷小学校</p>	<p>人との関わりの中で、多様性を認め合い、自らを高められる児童・生徒</p> <p>・瀬谷中ブロックの子供像実現に向けた小中一貫カリキュラムの作成 ・推進委員会の開催のもと、各部会の組織的な運営と連携 ・学校運営協議会を設置し、地域とともに児童生徒を育てていく体制づくり</p>

中期 取組 目標	<p>○子供・教職員・保護者・地域が自信と誇りをもてる学校を創ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常に子供の心を育てることを意識して活動に取り組み、明るく、正しく生き生きと生活できる子供の育成を目指します。 ・子供が主人公のわかる、できる楽しい授業を創るとともに、自学を推進し、学力の向上を目指します。 ・話をしっかりと聴く習慣、掃除に一生懸命取り組む姿勢、友達と声をそろえて歌う等、当たり前なのが自然にできるように、教職員が思いを共有して、指導します。 ・パティ活動等により、相手を思いやる心や自己有用感を育て、あたたかく楽しい学校生活が送れるようにします。
----------------	---

重点取組分野	具体的取組
<p>豊かな心</p> <p>担当 瀬谷の学び委員会・道徳部</p>	<p>①異学年交流で育てたい資質や能力を学年でよく吟味して指導にあたり、振り返りを大切にする。②音楽活動や読書活動等を通して、豊かな感性や感動する心を育てる。③代表委員会を柱とした委員会活動の充実を徹底し、子供たちが達成感や充実感を得られるようにする。</p>
<p>生きてはたらく知</p> <p>担当 研究推進部</p>	<p>①自分の課題と相手意識を大切に学習活動の充実を図るために、学習課題を意識した異学年交流のシステムを活用し、「だれのために、何のために」学習するのかを意識できる授業を創る。②言語活動の充実を図るために、授業の中に言語活動(説明、報告、記録、対話、討論など)を必ず一つ以上位置づけ、自分の考えを表現、交流できるようにする。③自学を推進する。</p>
<p>健やかな体</p> <p>担当 保健安全部</p>	<p>①運動量を意識した体育授業の改善をしていく。②運動委員会から提案される体力アップ企画を推進する。③外遊びを推進するとともに、運動内容の充実を図る。④栄養教諭を中心に、食育の推進をする。</p>
<p>児童指導</p> <p>担当 人権児童指導特別支援教育部</p>	<p>①子供を常に温かい人間関係の中に置く。②子供たちの抱える背景や特性を理解し、子供の困り感に対して、他機関との連携を含む、チーム支援を構築する。③多面的な児童理解のために、教科担任制やYPアセスメント等による支援検討会を実施する。</p>
<p>特別支援教育</p> <p>担当 人権児童指導特別支援教育部</p>	<p>①ユニバーサルデザインの授業や教室環境への理解を深め、瀬谷の学び、児童指導、人権教育部会が連携し推進する。②特別な支援が必要な子供についての理解を深め、今後の成長に向けて見通しを持って保護者と協働し、個別の支援計画や指導計画を作成していく。③個別支援学級の個に応じた育ちを大切にできる教育課程を推進するとともに交流学習の意味と内容を充実させていく。</p>
<p>地域連携・ 学校運営協議会</p> <p>担当 地域連携部</p>	<p>①学校運営協議会により地域とともに歩む学校創りを推進する。②瀬谷っ子サポーターや学援隊の地域・保護者の力を活用し子供の学びを充実させる。③プラスバンドや合唱クラブでの活動を地域に生かせるようにする。④学校説明会で経営方針を説明するとともに、HP等を活用し取組内容や子供の姿を発信していく。</p>
<p>いじめへの対応</p> <p>担当 いじめ防止対策委員会</p>	<p>①いじめ防止対策委員会を定期的実施し、未然防止の視点で教育活動を見直していく。②些細ないじめも見逃さないよう全教職員のいじめに対するアンテナを高くするとともに、複数回のアンケートにより、子供の実態や変化を丁寧に見取っていく。③発生したいじめには丁寧なコミュニケーションにより保護者との協働を作り出し、二度と被害にも加害にもさせないための組織的な取組を行う。</p>
<p>人材育成・ 組織運営 (働き方改革)</p> <p>担当 教務部・メンターチーム</p>	<p>①日々の授業実践を通して、互いが刺激し合いながら自らの感性と授業力を磨いていく。②対話による指導観のすり合わせを絶えず行い、全教職員が同じ目的をもって教育実践が行えるようにする。③業務アシスタントの導入により、効率化を図り、働き方改革の推進を目指す。④メンターチームを組織しミドルリーダーが講師となって活動を継続し、育成を図る。⑤教務会や学年主任会等により、ミドルリーダーが学校運営への視点を持てるようにする。</p>